

さいたま市図書館 レファレンス事例集

～地域の歴史編～

「〇〇について知りたいな」

「××について調べるにはどうしたらいいんだろう？」

そんな皆さまの疑問にお答えし、調べもののお手伝いをするのが、図書館のレファレンスサービスです。

さいたま市図書館で、これまでに回答したレファレンス事例の中から、読み物としても楽しい事例を選び作成しました。

今回は、**地域の歴史**について調べた事例です。

こういう質問も図書館では受付していますので、ぜひお気軽にご相談くださいね！

↓事例はすべてここから！↓

「レファレンス協同データベース」

<https://crd.ndl.go.jp/reference/>
国立国会図書館が全国の図書館と協同で構築している調べものためのデータベースです。



【編集・発行】さいたま市立中央図書館

さいたま市浦和区東高砂町11-1

TEL 048-871-2100/FAX 048-884-5500

<https://www.lib.city.saitama.jp/>

令和5年11月 発行

質問1

Q. 調神社にどうしてうさぎがあるのか。歴史的背景を知りたい。

A. つきの宮＝月の宮

うさぎは月宮殿の使姫です。



【参考になる本】

・『調神社』

青木義脩／執筆 浦和市郷土文化会 1978年
p10 「3 月待供養と調神社」

調神社は、室町時代以来、月信仰とも関係をもっていた。

調神社も月宮殿にされるようになると（略）また社殿にも兎の彫刻が各所におさめられ、本来なら狛犬を置くべき神社の入口に、これにかわり兎像を一對置いている。兎は月宮殿の使姫である。

・『調神社 浦和 さきたま文庫』

青木義脩／文・写真 さきたま出版会 1995年
p5「つきの宮は、また、月の宮でもあった。月待供養が盛んだった中世には、月宮殿に擬せられた。使い姫である兎が、殿舎彫刻や石像に見られるのは、こうしたところからである。」

質問2

Q. 江戸時代から氷川神社は有名な行楽地で、大変な賑わいだったというのは本当か。

A. 以下の資料で確かめられます。



【参考になる本】

・『中山道紀行 カメラリポート』

NHK6局「中山道」制作グループ／編集 郷土出版社 1990年
p20-21「武蔵国一宮」と刻まれた大きな碑があり、木造では日本最大の一の鳥居をくぐって社殿までは十八町（1962メートル）の参道が続く。江戸初期にはこの参道が中山道で、社殿前から左折、迂回していた。寛永5年（1628）、幕府は、世の中が平和になって旅する人も増えたことから、大宮を南北に通してまっすぐな道につくりかえた。」

・『近郊散策江戸名所図会を歩く』

川田寿／著 東京堂出版 1997年
p211「神社を中心として繁栄してきた大宮宿は、天保14年（1843）ごろ、宿内の人口は1000人をこえ、本陣1軒、脇本陣9軒を数えた。旅籠屋も大1軒、中5軒、小19軒と多く、中山道随一の賑やかな宿場であった。」

質問3

Q. 昭和 30 年代から 40 年代に、与野駅前にあった映画館の名称と場所を知りたい。

A. 「与野文化劇場」(与野国際)
与野駅前の下落合 1027

【参考になる本】

・『与野まち風土記 与野市制 40 周年記念』
与野市教育委員会生涯学習課／編集 与野市教育委員会 1998 年
p24 夜霧に消えた銀幕のヒーロー
「与野駅前の下落合には「与野文化劇場」(与野国際)という映画館があった。入場料は大人 55 円、学割 40 円、子供 30 円、庶民の娯楽「映画」は、まだ元気であった。」との記述がある。写真の掲載もある。

・『レンズがとらえた昔の与野』

与野市教育委員会社会教育課／編 与野市教育委員会 1993 年
p2 に写真が掲載されている。



地域の歴史を資料で
たどれます。

質問4

Q. 岩槻で行われている、流しびなはいつ頃始まったか。どんな行事か。

A. 昭和 60 年 3 月 1 日開始。
現在は、4 月 29 日、岩槻城址公園内の菖蒲池で、子どもたちの健やかな成長を願い、災いや病苦などを人形(さん儀)に託して流す伝統行事になっている。

岩槻三大まつり
の一つ！



【参考になる本】

・『広報いわつき縮刷版 IV』
岩槻市役所企画部広報公聴課／編 岩槻市 1991 年
p625 に記載あり。

・『岩槻大百科 二十五周年記念事業』
二十五周年記念事業実行委員会／編集 岩槻地方史研究会 1994 年
p36 に記載あり。

質問5

Q. 太平洋戦争中に、現在のステラタウン(さいたま市北区)の場所にあった中島飛行機の工場について知りたい。

A. 以下の資料に掲載があります。



【参考になる本】

・『歴史のなかの中島飛行機』
桂木洋二／著 グランプリ出版 2002 年
p213 「1942 年(昭和 17 年)中島、大宮製作所の
新設開始」「1943 年(昭和 18 年)中島、大宮製作
所(17 年 6 月着工)発動機生産開始」

・『中島飛行機の研究』
高橋泰隆／著 日本経済評論社 1988 年
p251-257 大宮製作所
p254 表 4-13 大宮製作所の疎開計画

・『浦和市史 第 4 巻[4]』
浦和市総務部市史編さん室／編 浦和市 1981 年
p858 中島飛行機大宮製作所学校報国隊出動
令書